

気候情報

2007年2月の日本の天候

気温かなり高い(全国)、
降雪が少なく日照時間多い(日本海側)

2月の天気概況

高気圧と低気圧が数日の周期で交互に通過し、冬型の気圧配置は長続きしなかった。移動性高気圧に覆われる日が多く、低気圧通過後も強い寒気の南下はほとんどなかった。このため、全国的に顕著な高温となり、北・東・西日本では平年を2.5°C前後上回った。北・東日本日本海側の降雪量はかなり少なく、東日本日本海側では1961年以降最も少なかったほか、太平洋側の降雪量もかなり少なかった。一方、日照時間はほぼ全国的に多く、東日本日本海側では1946年以降最も多かった。中旬には、低気圧が日本海を発達しながら通過したため、全国的に荒れ模様となり、春一番となった。

上旬：1日に低気圧が通過した後、4日にかけては冬型の気圧配置となり、南西諸島から西日本にかけては一時的に強い寒気が南下した。5日から8日にかけては、東日本から南西諸島にかけて高気圧に覆われて、晴れて気温が上がった。9日から10日にかけては、南岸を低気圧が通過したため、東・西日本では曇りや雨となった。北日本では5日以降、天気は数日の周期で変わったが強い寒気の南下はなく、気温の高い日が続いた。旬平均気温は、全国で高く、北・東・西日本はかなり高かった。旬降水量は、日本海側と南西諸島で平年並、太平洋側で平年より少なかった。旬間日照時間は、北日本太平洋側と南西諸島で平年並のほかは多く、東日本日本海側と西日本太平洋側ではかなり多かった。

中旬：高気圧と低気圧が交互に日本付近を通過し、天気は数日の周期で変わった。14日は低気圧が発達しながら日本海を通過し、太平洋側の一部で大雨となったほか、各地で強風が吹き荒れ、突風による被害が相次いだ(関東・北陸～九州にかけて春一番を観測)。この低気圧の影響で、15日には北海道太平洋側とオホーツク海側で大雪となり、東・西日本では一時的に強い冬型の気圧配置となった。その後、18日には低気圧が南岸を通過したため、東・西日本では曇りや雨となったが、その他の日は移動性高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が多かった。旬平均気温は、全国で高かった。旬降水量は、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で多く、その他は平年並だった。旬間日照時間は、北日本日本海側で少なく、東日本日本海側で多く、西日本ではかなり多かった。その他は平年並だった。

下旬：移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かった。23日には、低気圧や前線が日本付近を通過し、全

国的に曇りや雨となった。24日から25日にかけては、一時的に寒気が流れ込み、北・東日本では気温は平年を下回った。旬平均気温は、全国で高かった。旬降水量は、北・東・西日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側では少なかった。西日本太平洋側と南西諸島では平年並だった。旬間日照時間は、東・西日本日本海側、北日本と南西諸島でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。西日本太平洋側では平年並だった。

2月の気候統計

月平均気温：全国的にかなり高かった。平年を2.5°C前後上回ったところが多かった。

月降水量：北日本から東日本にかけての日本海側で少なかったほかは、全国的に平年並だった。

月間日照時間：全国的に多く、東日本から西日本にかけての日本海側と南西諸島ではかなり多かった。北陸地方や南西諸島の一部では平年の150%以上となった。

降雪・積雪：降雪の深さ(月合計)および月最深積雪ともに、全国的にかなり少なかった。

(気象庁観測部統計室)

2月の記録(1位更新のみ)

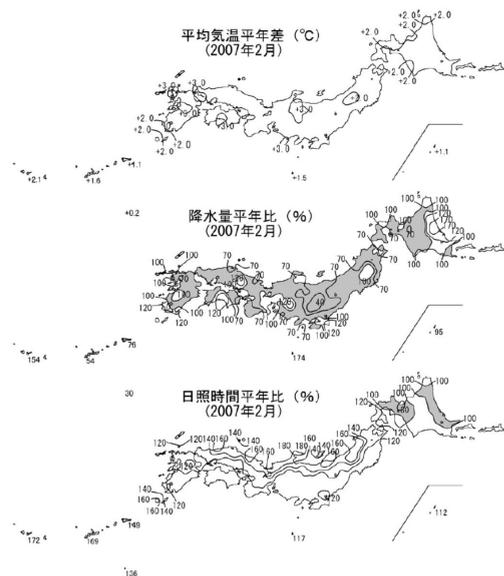
・月平均気温高い方から(°C)

江差 1.8 青森 1.6 金沢 6.2 東京 8.6
神戸 8.7 高松 8.2 大分 9.2 など17地点

・日照時間多い方から(時間)

秋田 111.1 新潟 119.4 金沢 130.2
彦根 159.2 など9地点

2007年2月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す。